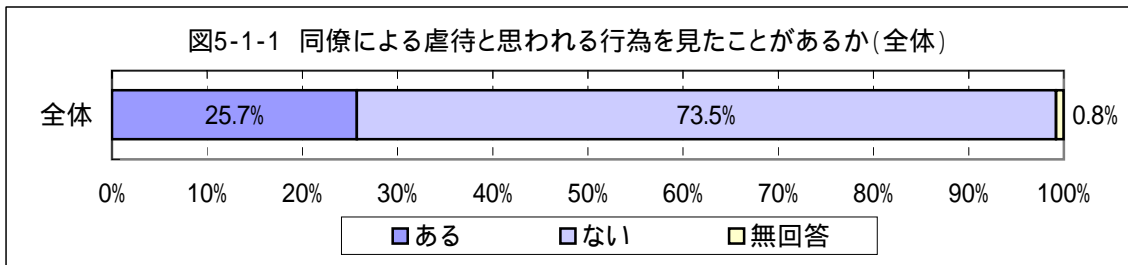


## 5 虐待行為について

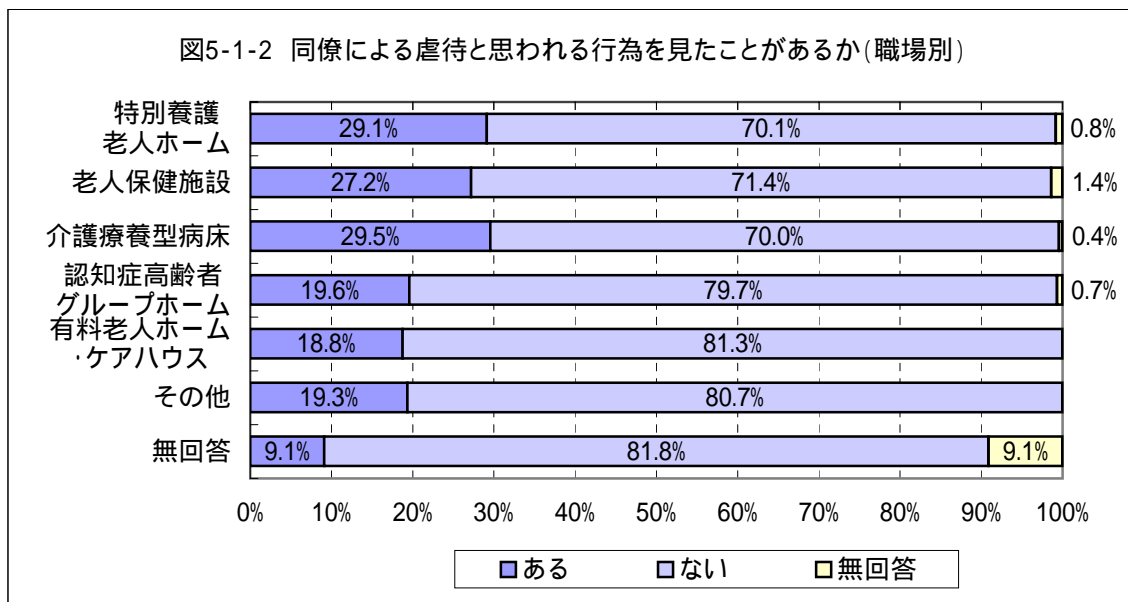
### (1) 同僚による虐待と思われる行為を見たことがあるか

#### 全体

「同僚が利用者に対して虐待と思われる行為をしているところを見たことがあるか」の問いへの回答は、「ある 281人」、「ない 803人」であった。

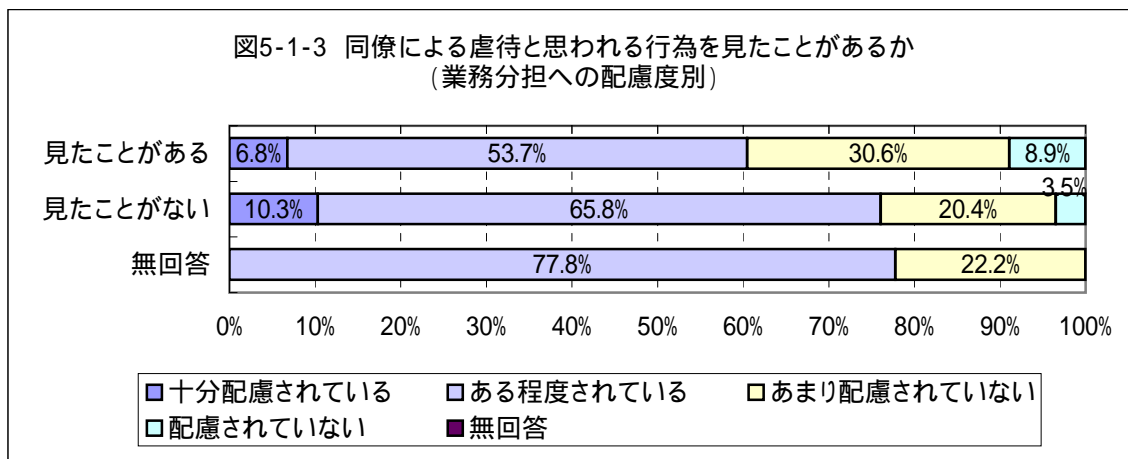


#### 職場別

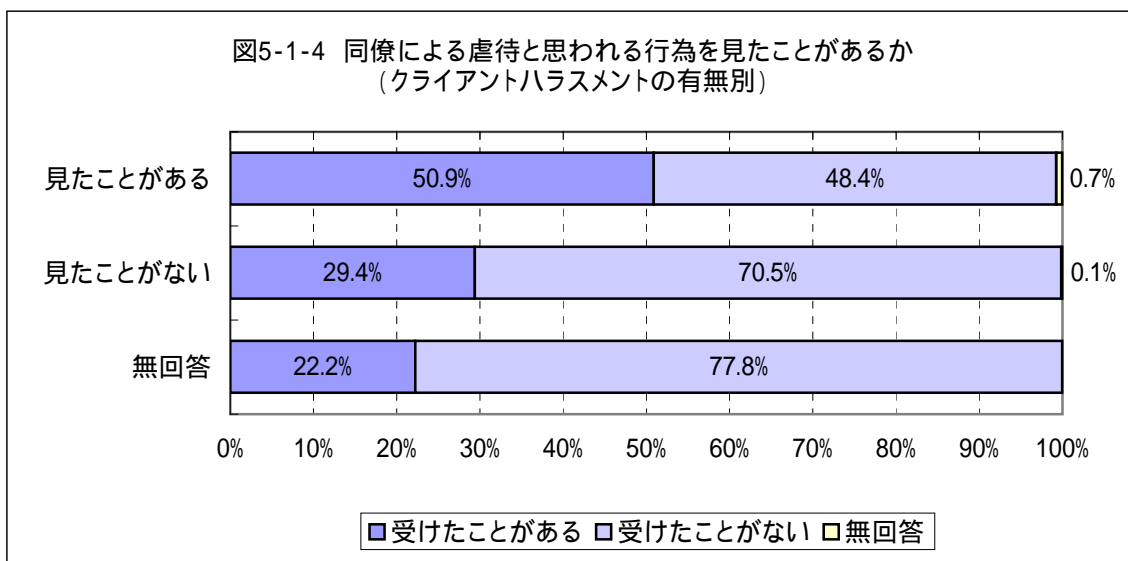


#### 業務分担への配慮度別

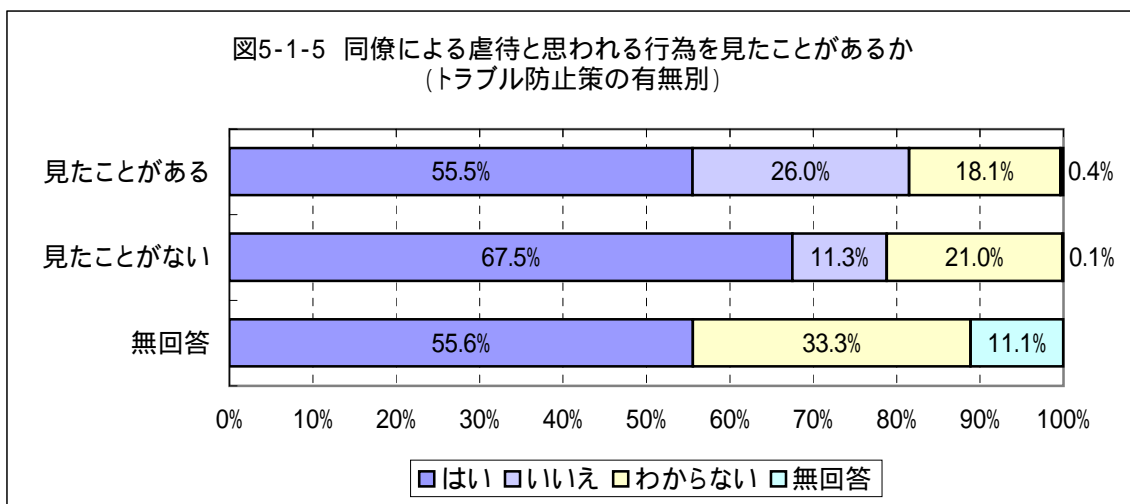
業務分担の配慮が「十分ある」+「ある程度ある」と回答したものは、「同僚による虐待行為を見たことがある 60.5%」、「見たことがない 76.1%」であった。



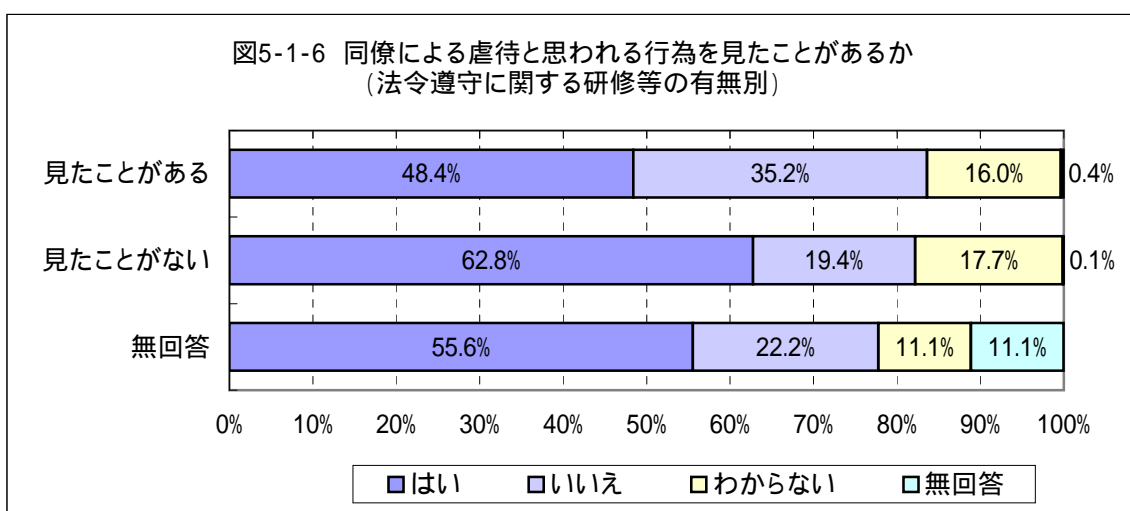
## クライアントハラスメントの有無別



## トラブル防止策の有無別



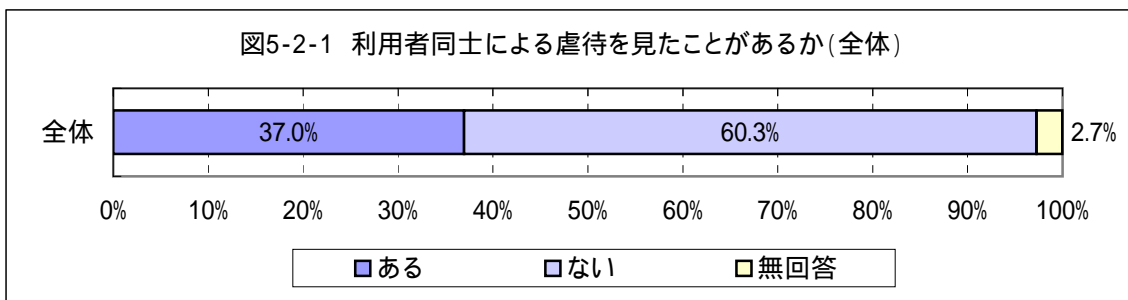
## 法令遵守に関する研修等の有無別



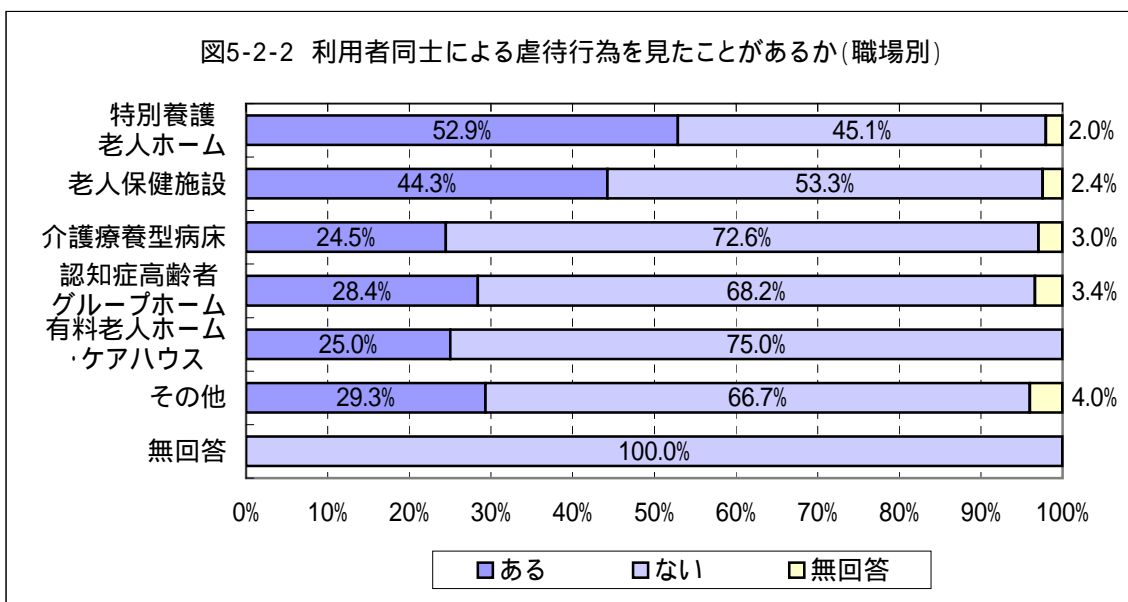
## (2) 利用者同士による虐待を見たことがあるか

### 全体

「利用者同士による虐待を、見たり気付いたことがあるか」の問いへの回答は、「ある 404人」、「ない 659人」であった。

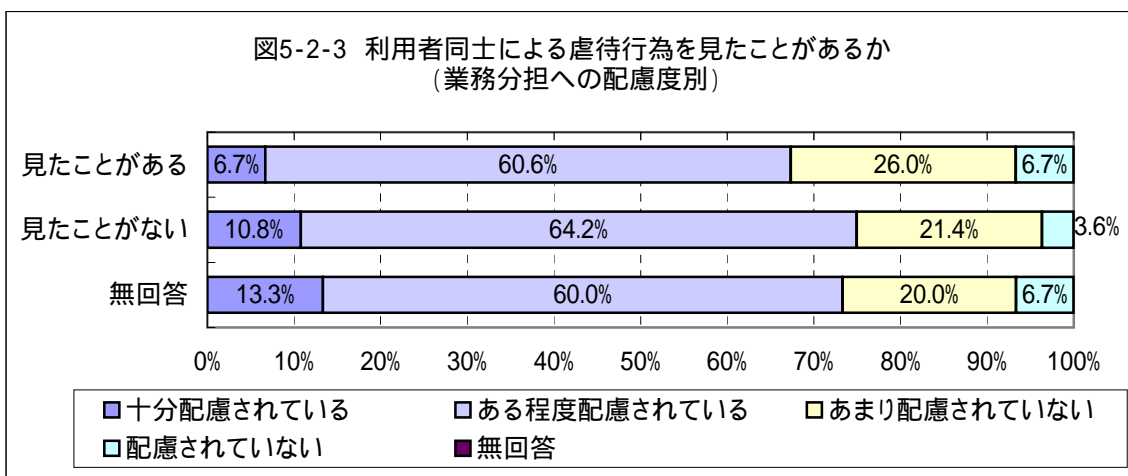


### 職場別

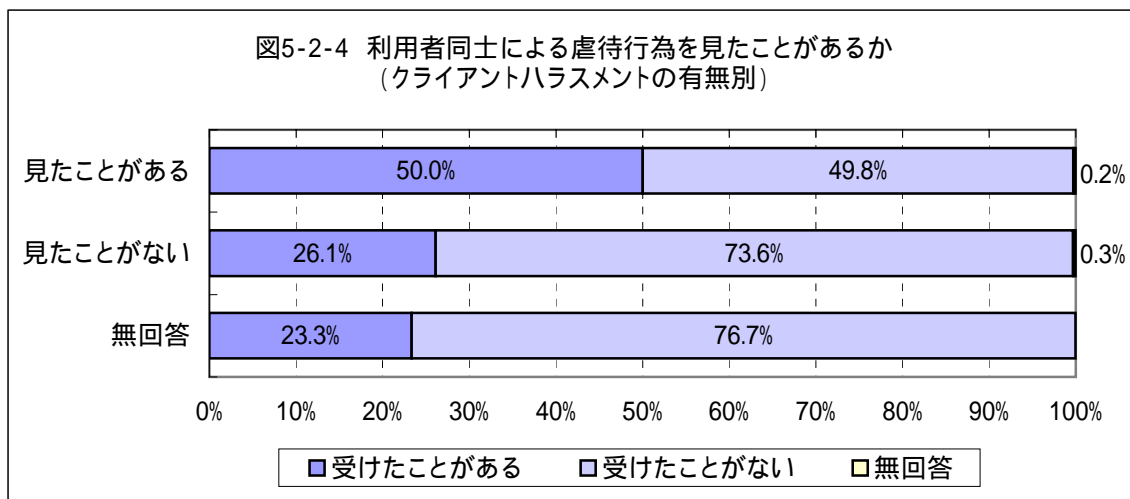


### 業務分担への配慮度別

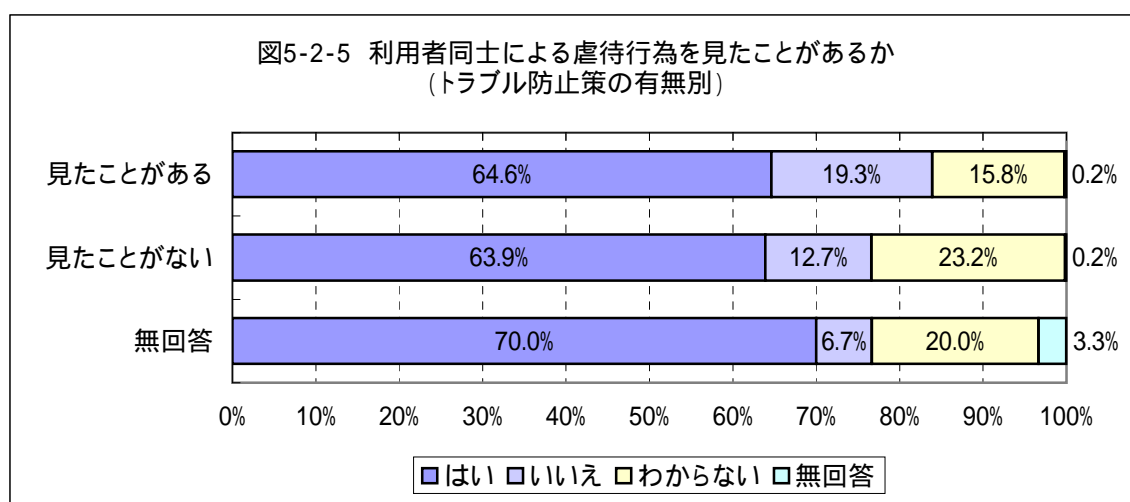
業務分担への配慮度別にみると、「十分ある」+「ある程度ある」と回答したものは、「見たことがある 67.3%」、「見たことがない 75.0%」であった。



### クライアントハラスメントの有無別



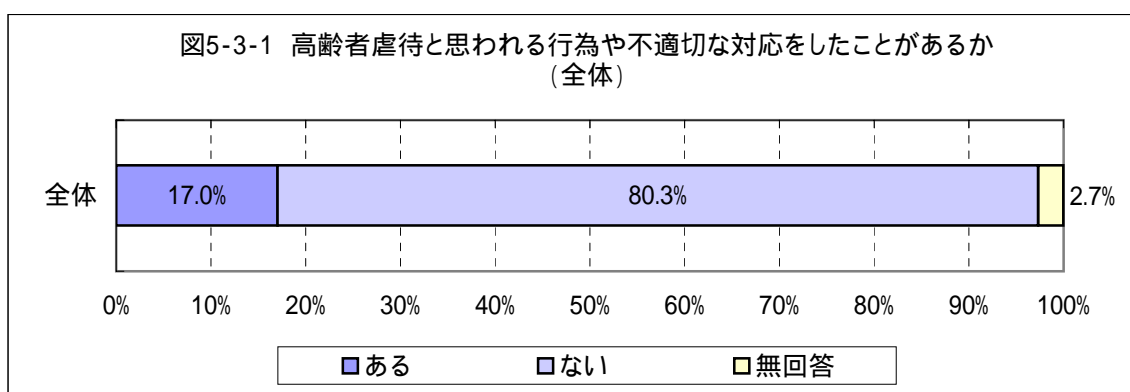
### トラブル防止策の有無別



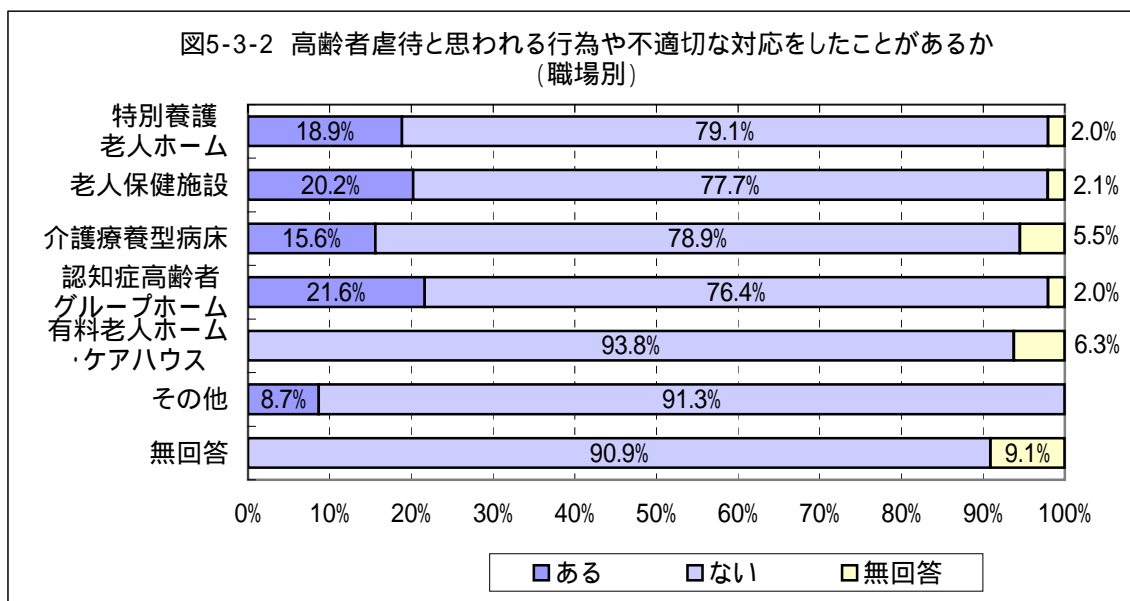
### (3) 高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応をしたことがあるか

#### 全体

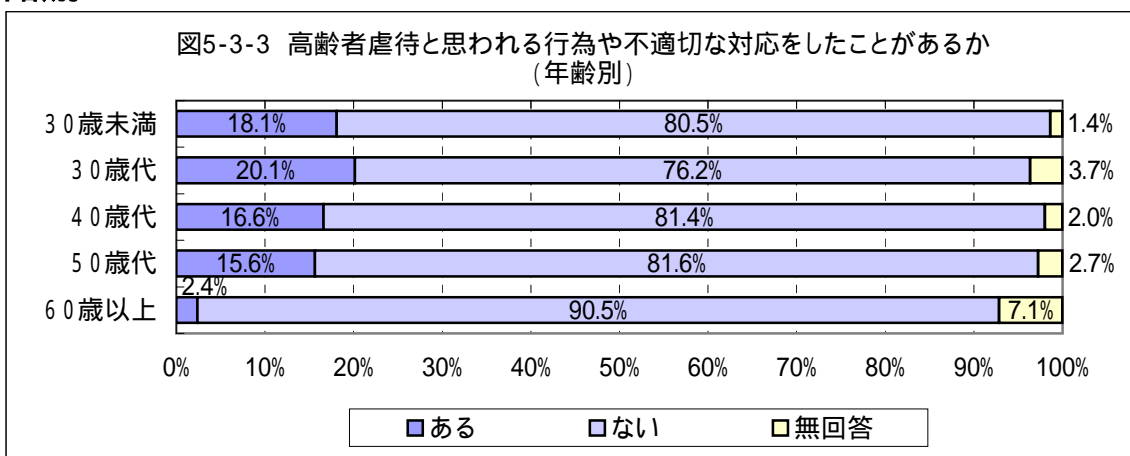
「現在の職場で高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応をしたことがあるか」の問いへの回答は、「ある 186人」、「ない 878人」であった。



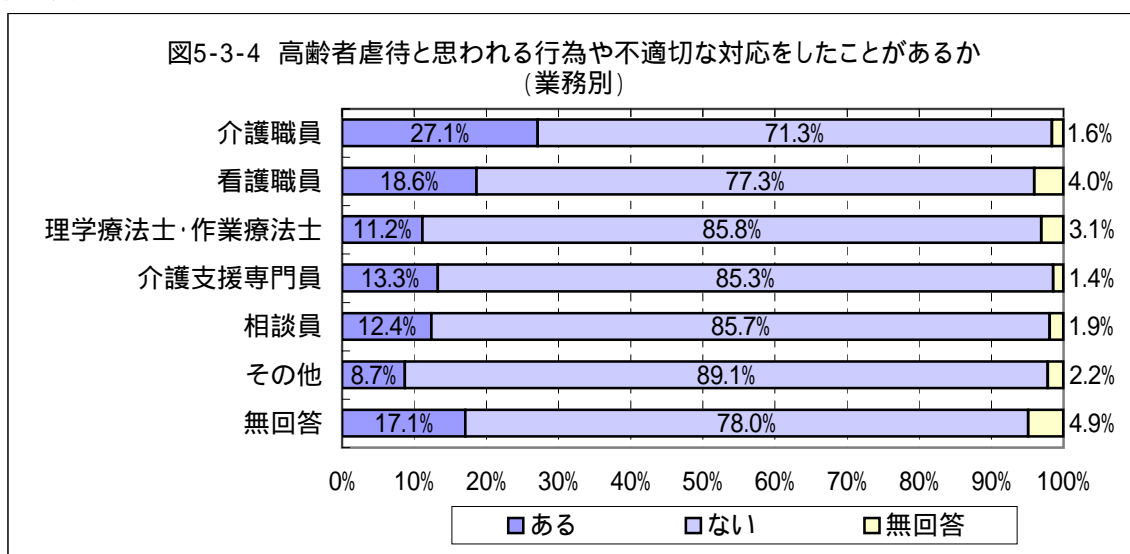
## 職場別



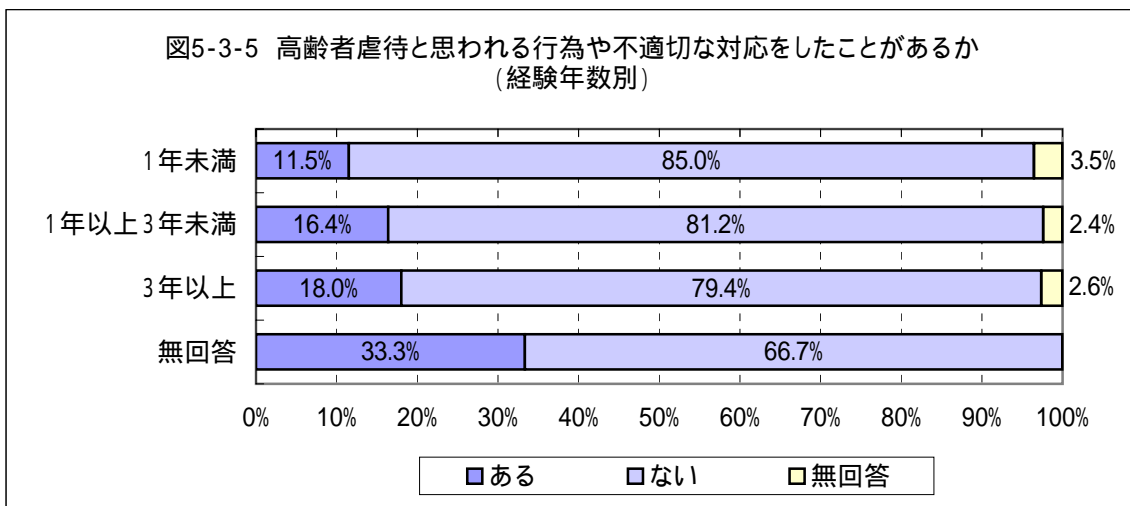
## 年齢別



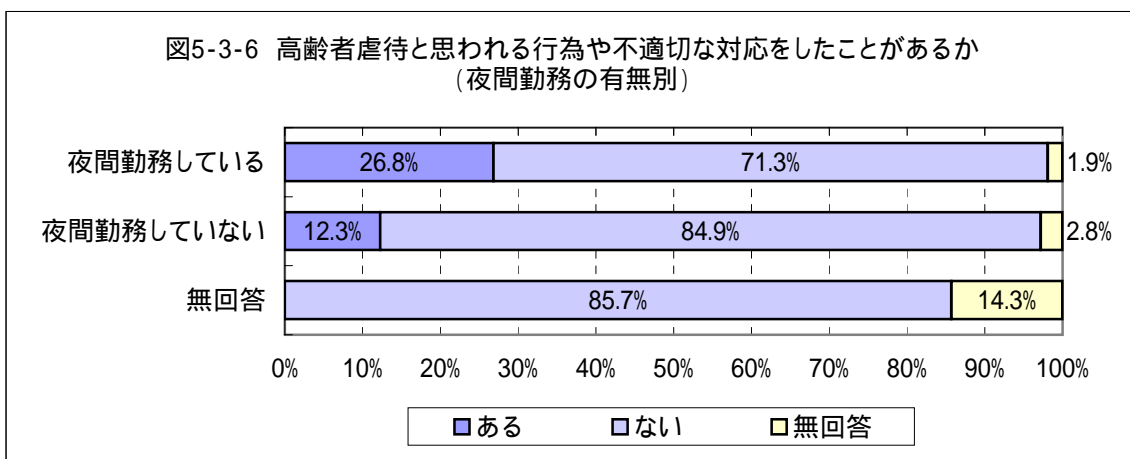
## 業務別



### 経験年数別

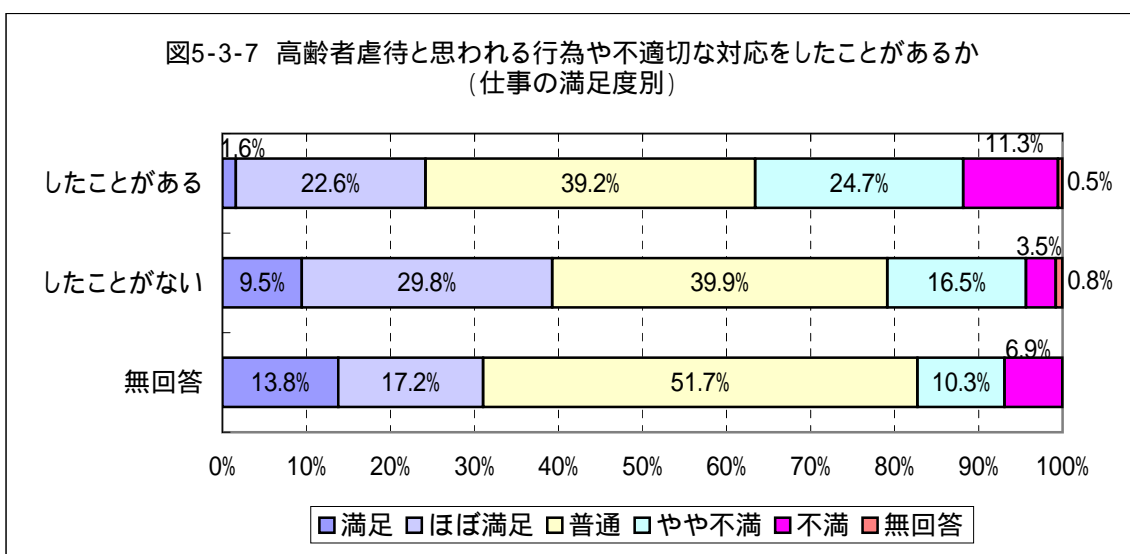


### 夜間勤務の有無別



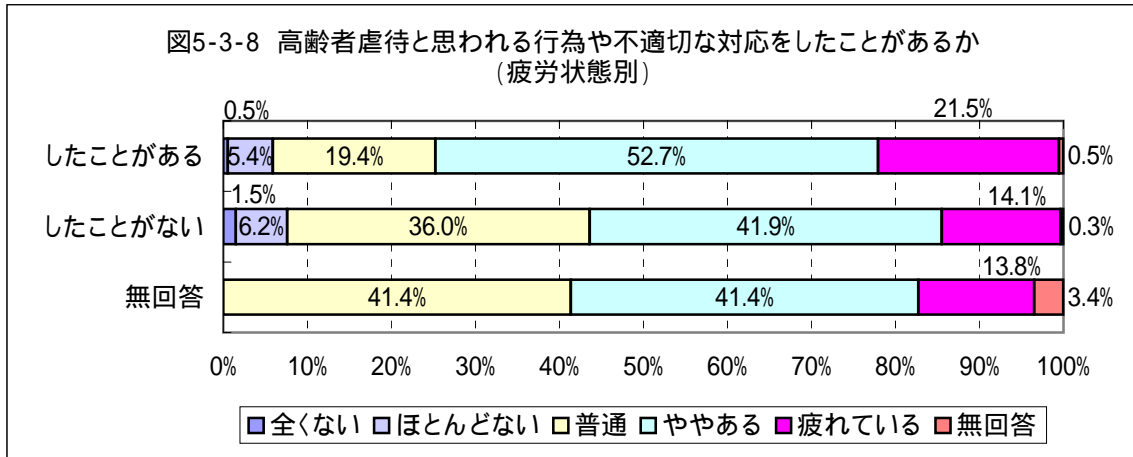
### 仕事の満足度別

仕事の満足度別にみると、「満足」+「ほぼ満足」と回答したものは、「したことがある 24.2%」、「したことがない 39.3%」であった。



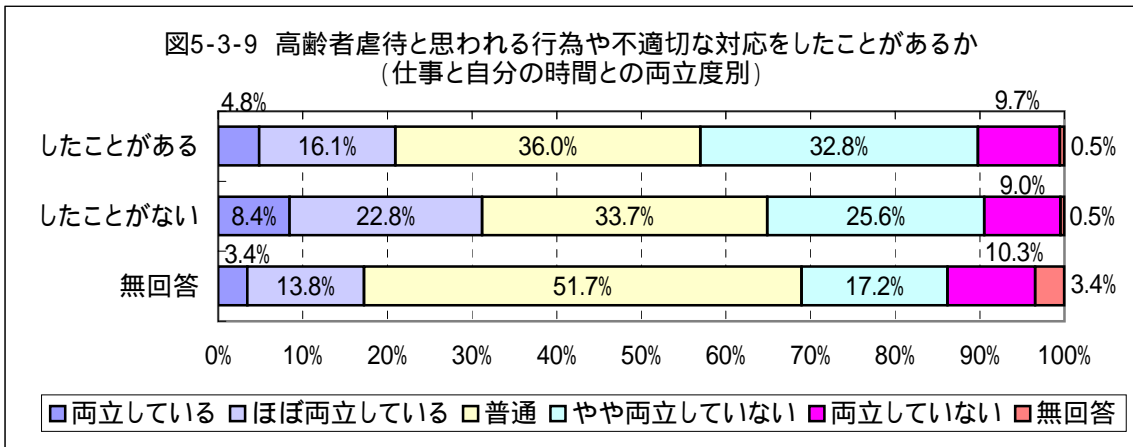
### 疲労状態別

疲労状態別にみると、「全くない」+「ほとんどない」と回答したものは、「したことがある 5.9%」、「したことがない 7.7%」であった。



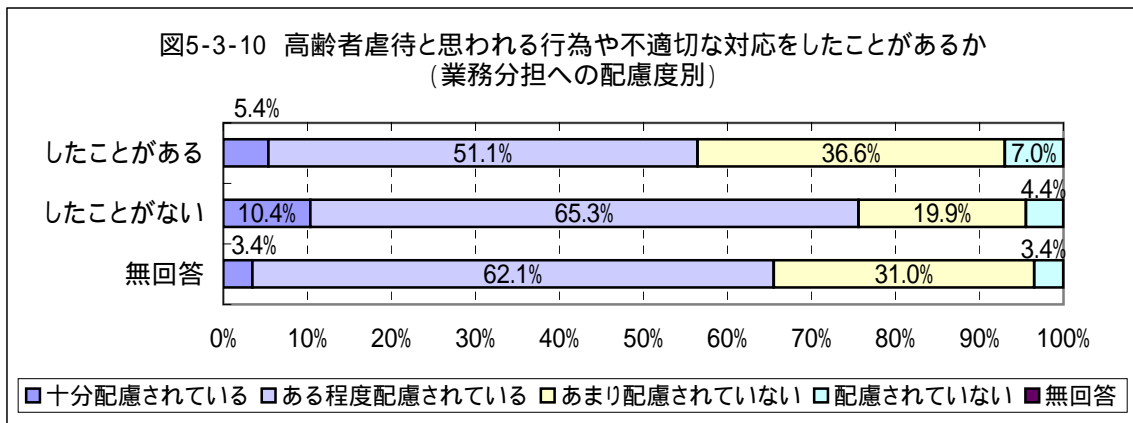
### 仕事と自分の時間との両立度別

仕事と自分の時間との両立度別にみると、「両立している」+「ほぼ両立している」と回答したものは、「したことがある 20.9%」、「したことがない 31.2%」であった。

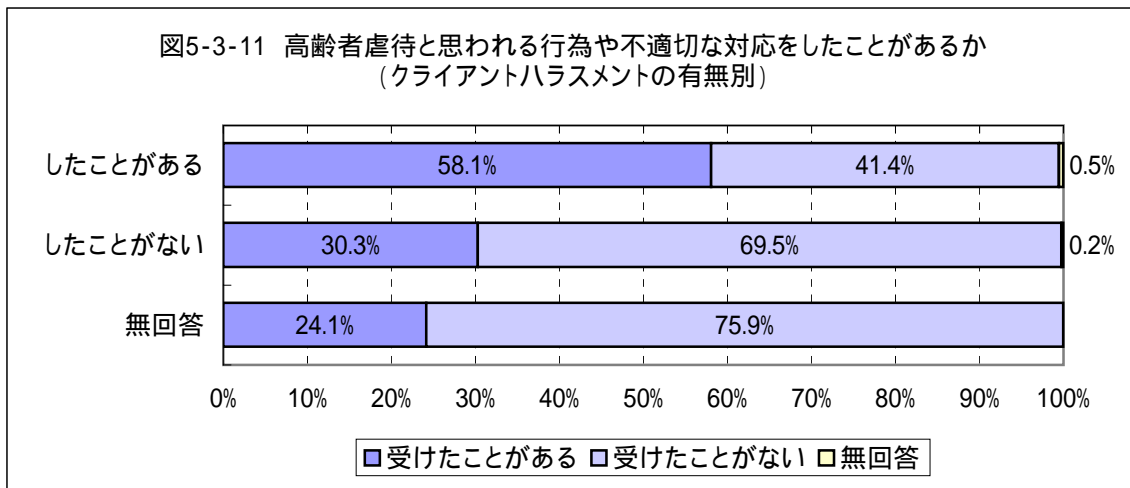


### 業務分担への配慮度別

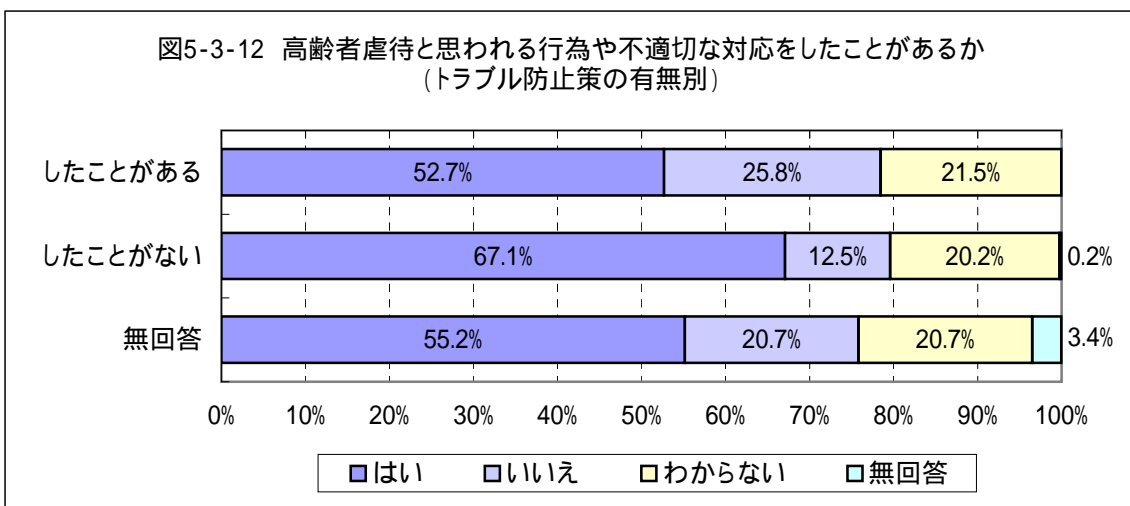
職場における業務分担への配慮度別にみると、「十分に配慮されている」+「ある程度配慮されている」と回答したものは、「したことがある 56.5%」、「したことがない 75.7%」であった。



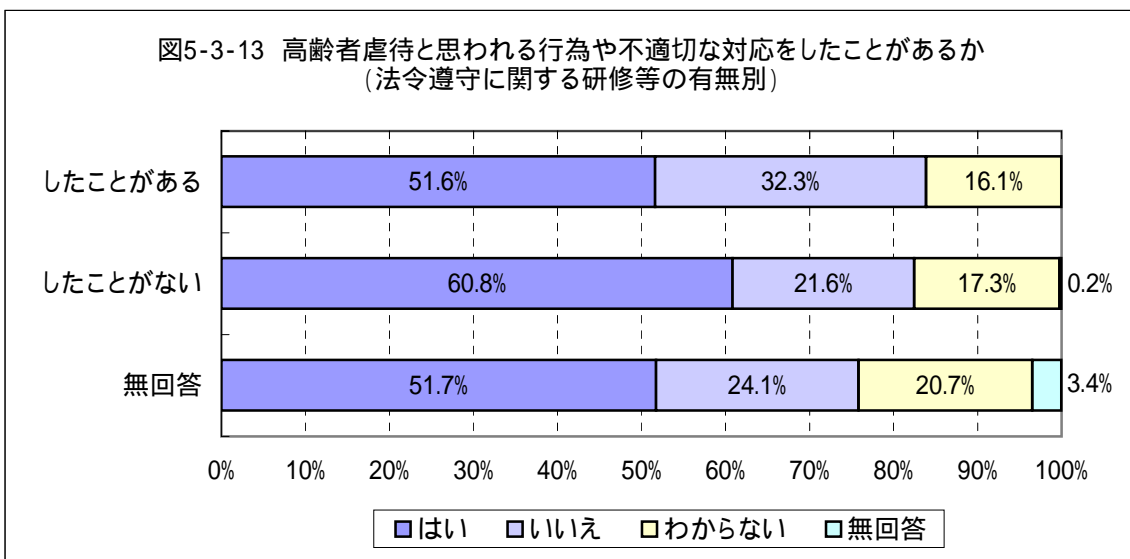
### クライアントハラスメントの有無別



### トラブル防止策の有無別



### 法令遵守に関する研修等の有無別

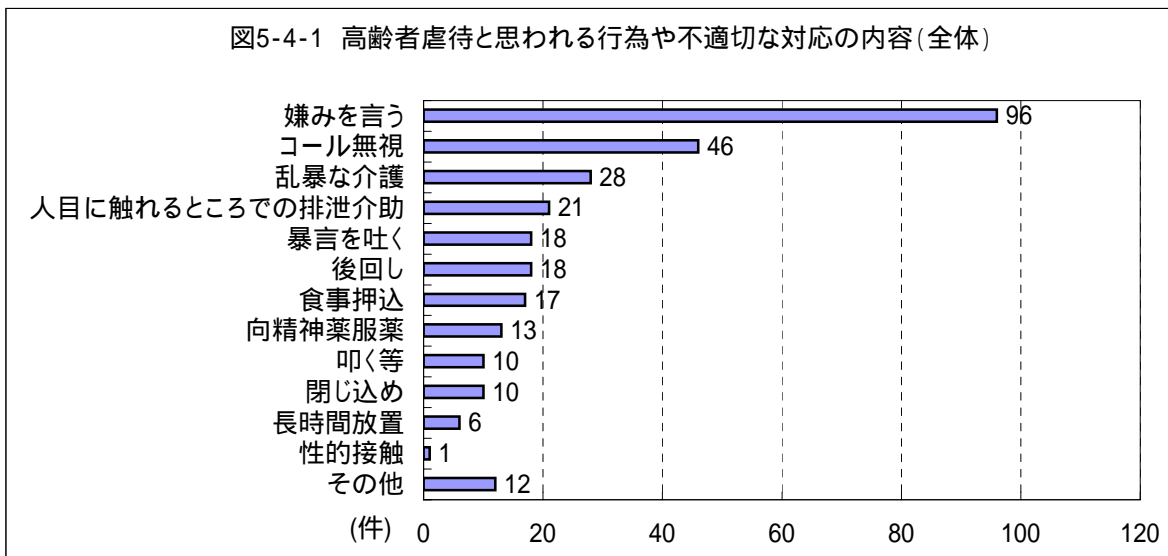




#### (4) 高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応の内容

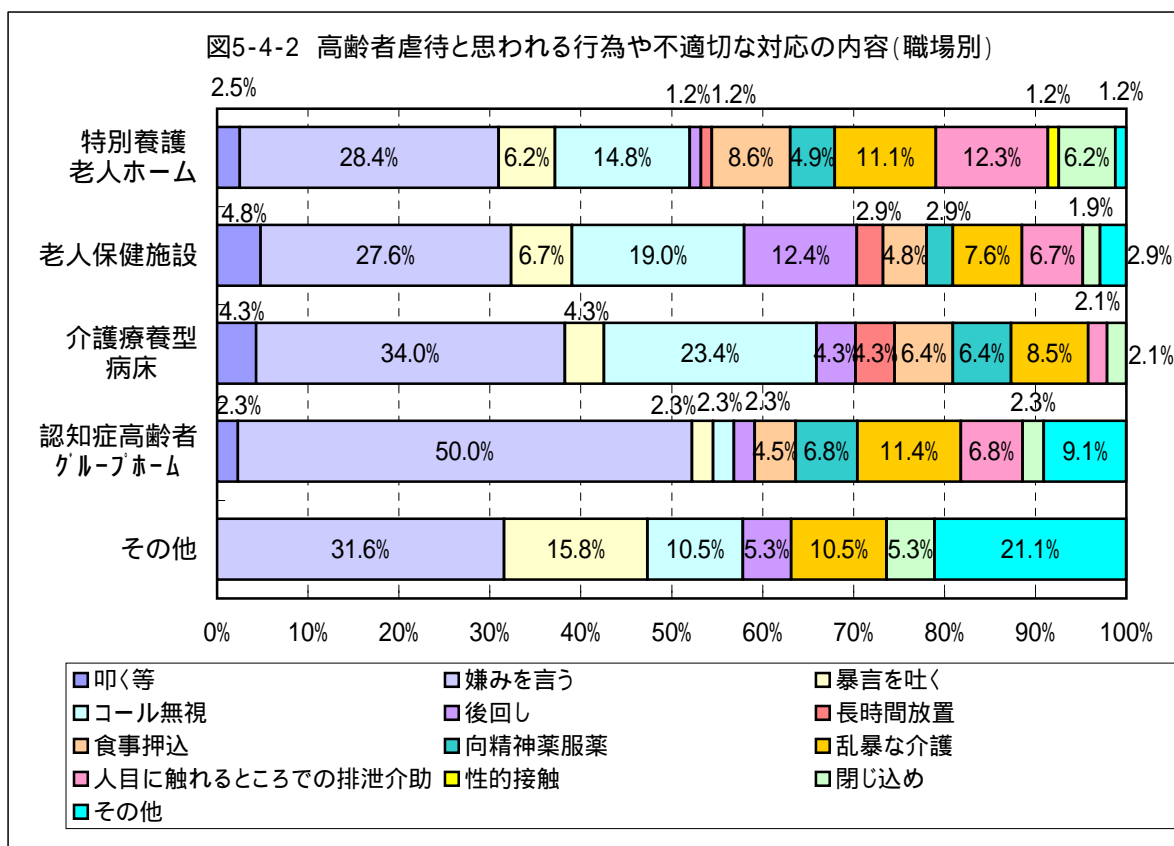
##### 全体

現在の職場で行った高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応の内容は、「利用者に嫌みを言った 96件」が最も多く、次いで、「利用者のコールを無視した 46件」、「乱暴な介護をした 28件」と続いていた。また、「人目に触れるところで排泄介助や着替えをさせた 21件」、「利用者を罵るなど暴言を吐いた 18件」、「嫌いな利用者の順番を後回しにした 18件」、「食事を無理矢理押し込んだり無理にせかしたりした 17件」、「叩く、つねる、枕を顔に押し付ける等した 10件」となっていた。



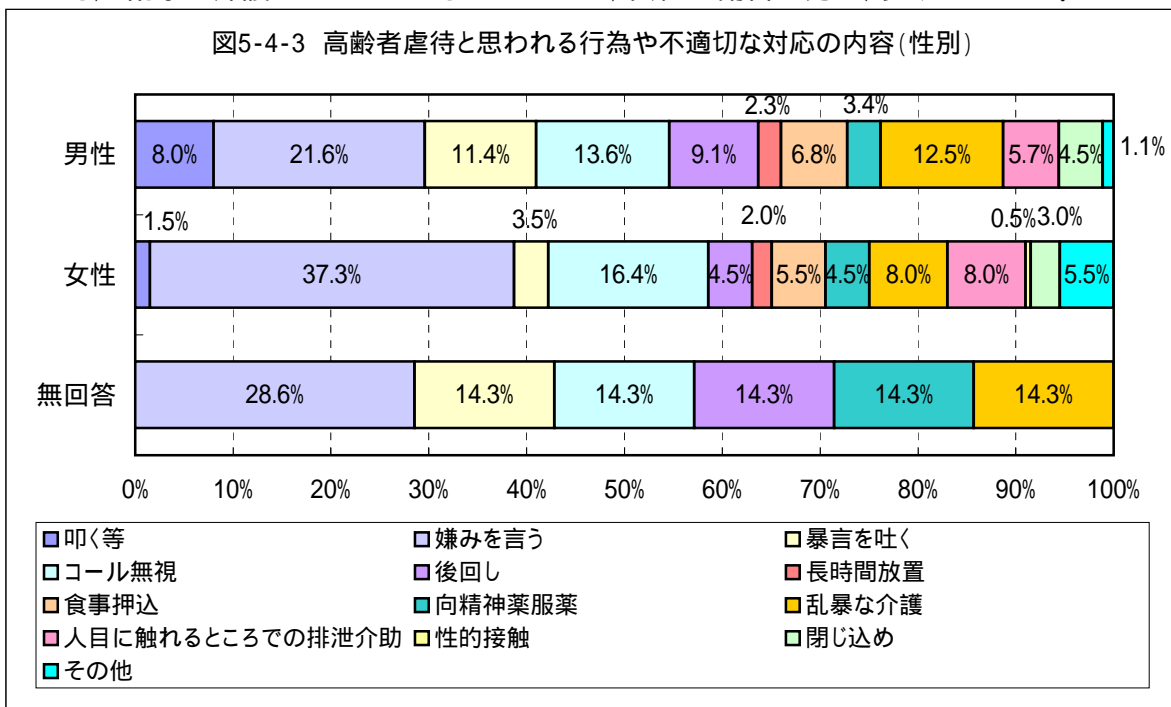
##### 職場別

職場別にみると、全ての職場で「利用者に嫌みを言った」の割合が最も多くなっていた。「有料老人ホーム・ケアハウス」においては、「不適切な行為を行った」と回答したものはなかった。



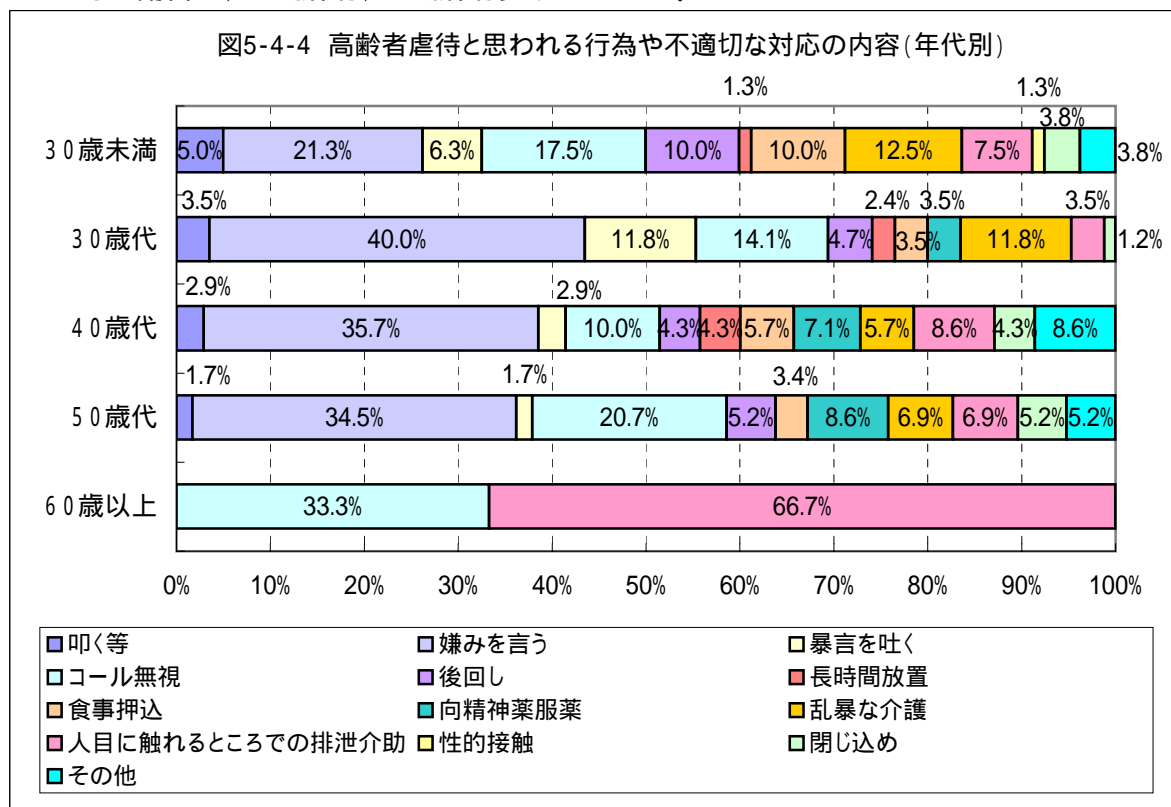
## 性別

性別にみると、男女とも「利用者に嫌みを言った」の割合が最も多く、「男性 21.6%」に比べ、「女性 37.3%」と多くなっていた。男性の割合では、「叩く、つねる、枕を顔に押し付ける等した 8.0%」、「乱暴な介護をした 12.5%」となっており、女性の割合に比べ、多くなっていた。



## 年齢別

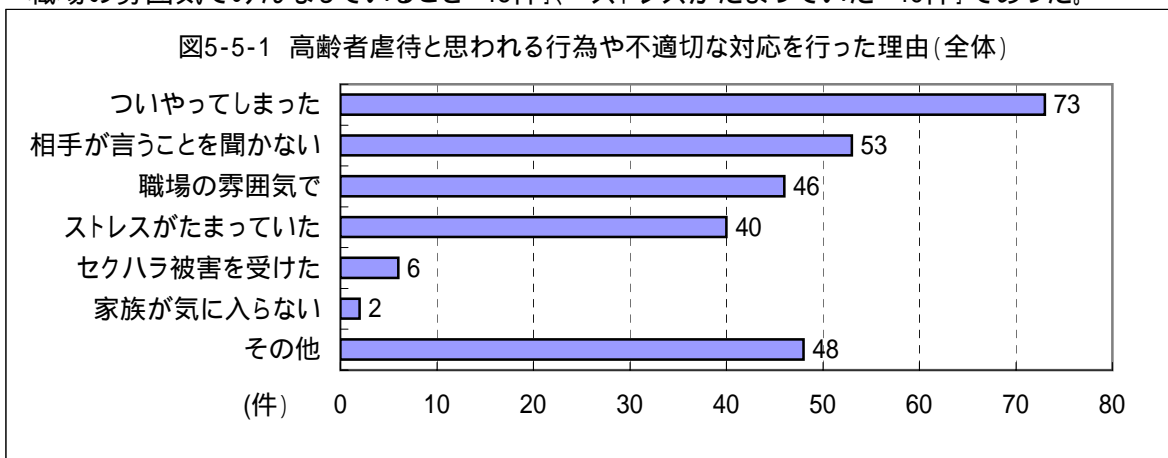
年齢別にみると、「利用者に嫌みを言った」の割合は、「30歳代 40.0%」で最も多くなっていた。「乱暴な介護をした」の割合は、「30歳未満」、「30歳代」で多く、「向精神薬を服用させ静かにさせた」の割合は、「40歳代」、「50歳代」多くなっていた。



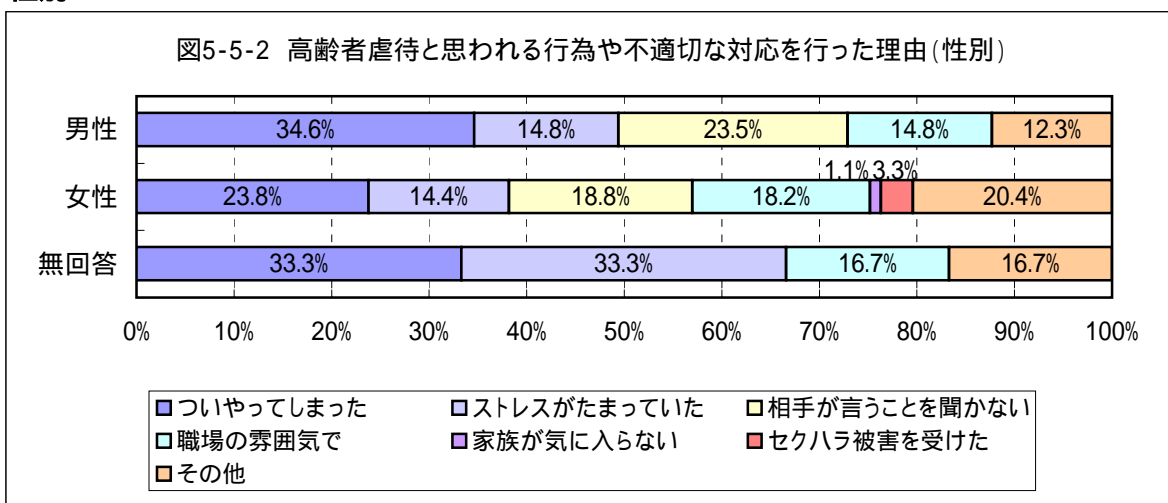
## (5) 高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応を行った理由

### 全体

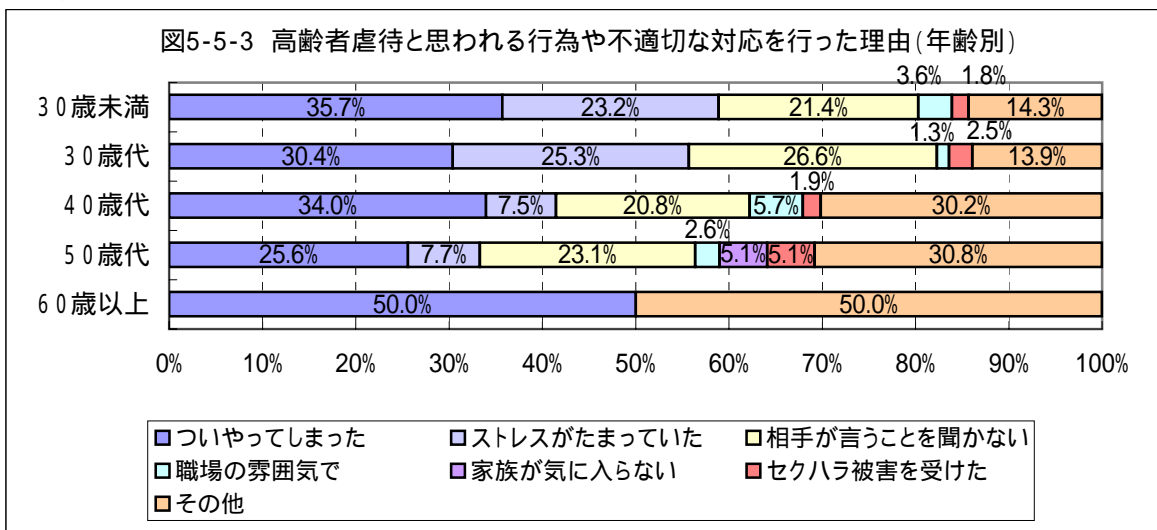
「現在の職場で高齢者虐待と思われる行為や不適切な対応を行った理由」の問いへの回答は、「ついやってしまった 73件」が最も多く、次いで、「相手が言うことを聞かなかった 53件」、「職場の雰囲気ですトレスがたまっていた 46件」、「ストレスがたまっていた 40件」、「セクハラ被害を受けた 6件」、「家族が気に入らない 2件」、「その他 48件」であった。



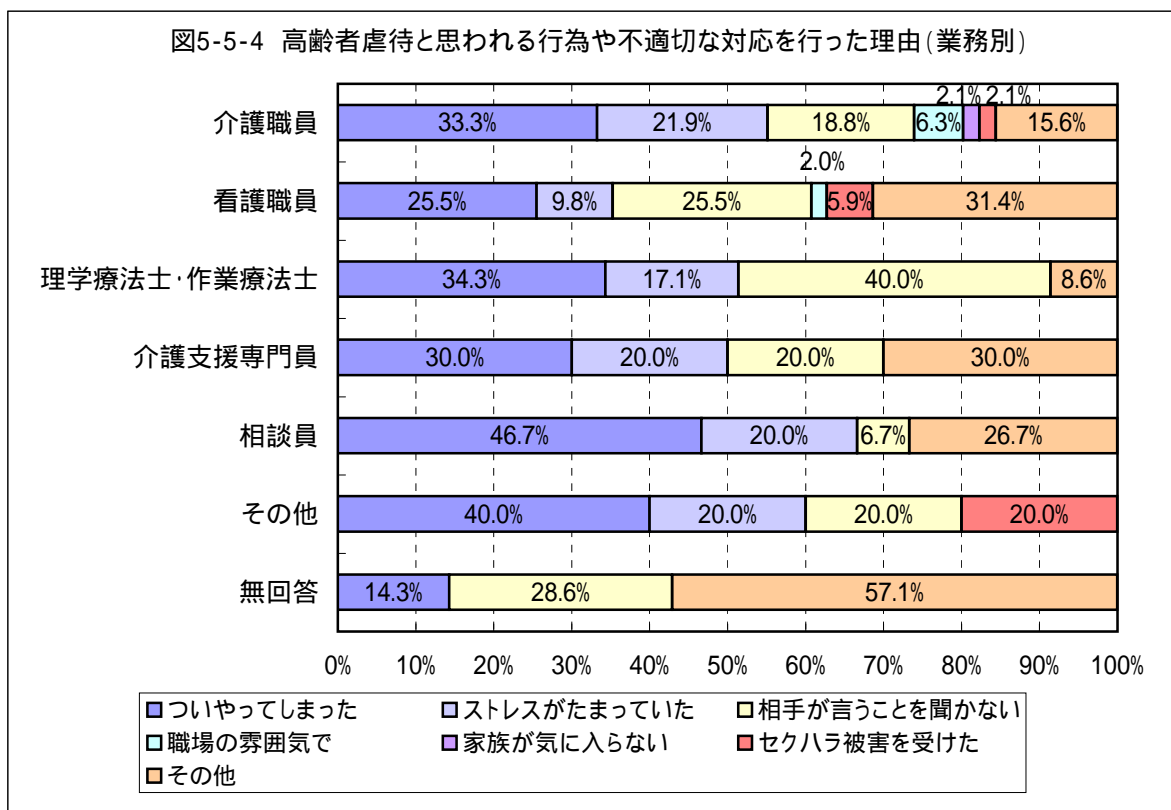
### 性別



### 年齢別



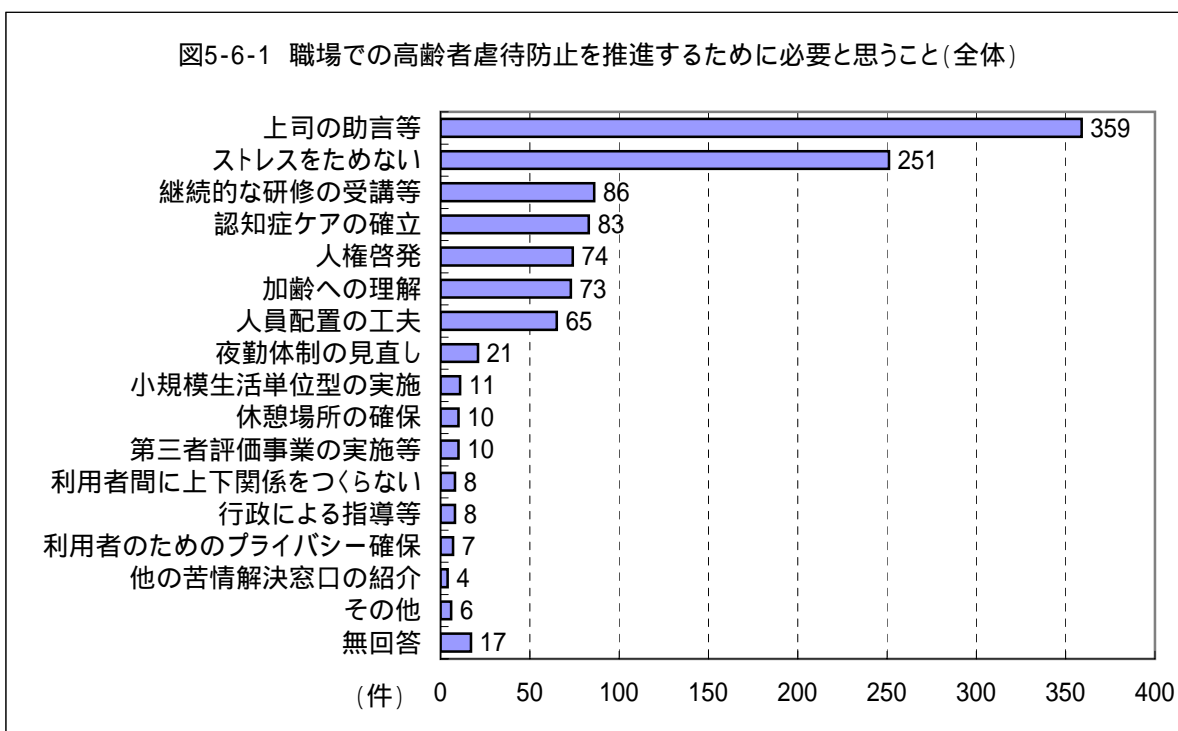
## 業務別



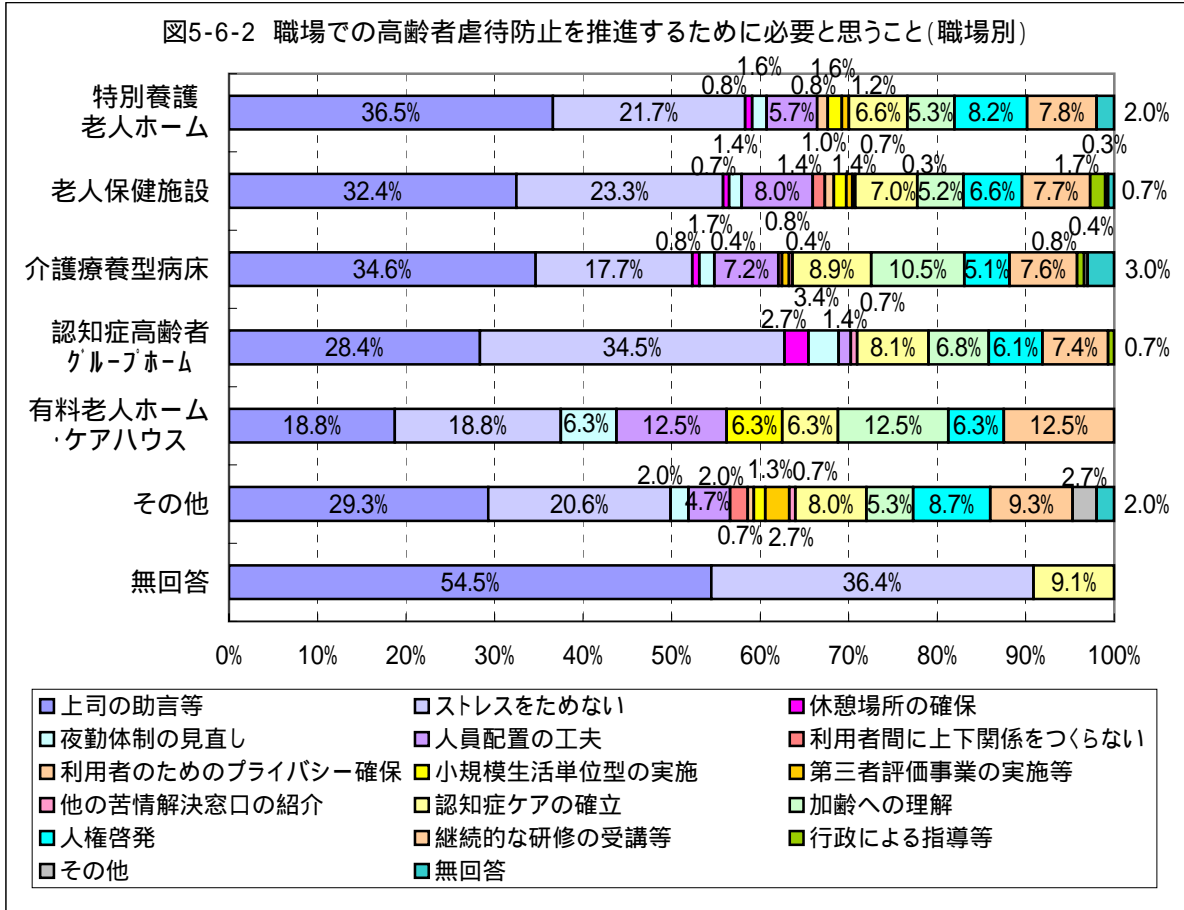
## (6) 職場での高齢者虐待防止を推進するために必要だと思うこと

### 全体

「職場での高齢者虐待防止を推進するために必要だと思うこと」の問いへの回答は、「上司からのスーパービジョン(示唆・助言)、管理者による教育的指導、研修体制の確立等施設内のガバナンス(統治機能)の確立 359件」と最も多く、次いで、「職員個人あるいは職員間にストレスをためない工夫 251件」であり、両者をあわせると610件となり過半数を超えていた。



## 職場別



## 年齢別

